

Kure 恋こい No. 20

Nursing

第60回 卒業式



卒業生のみなさんへ



国立病院機構
呉医療センター附属
呉看護学校 学校長
繁田 正信

呉医療センター附属呉看護学校第60回生の皆様、卒業おめでとうございます。3年前の春、看護師になる夢と希望に胸を膨らませて本校に入学され、あっという間に卒業を迎えられた事と思います。

思えば皆さんが入学された令和4年は、まだ新型コロナウイルス感染症の真只中で、人と人が接触する事を制限され、様々な式典や催し物が中止になり、授業や実習に関しても多くの制限下に行われていました。令和5年5月から新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に引き下げられ、少しずつ通常の学校生活に戻って行き、令和6年からは、ほぼコロナ前の状態に戻りました。皆さんは、コロナ中、コロナ後の両方を体験された訳です。身に染みて実感された事と思いますが、新型コロナウイルス感染症は人々の生活様式に劇的な変化をもたらしました。人と人との交流を断たれると、いかに日々の生活が味気ないものになるか、今の何気ない友達や家族との会話や食事、外出がどれ程、心に潤いを与えてくれるか、改めて、何気ない通常の生活に感謝されていると思います。

これから皆さんは、看護師となり臨床の場に立つ事になります。看護師の仕事は、患者の病状、既往歴、服薬の状況、家族を含めた患者周囲の環境等を把握し、入院後の治療により生じる様々な変化に気づき、その情報を共有する必要があります。様々な社会や環境で生活していた患者さんが、病気を癒すために一定期間入院をされ、その間、濃密に関わるのです。趣味や性格、置かれた立場、あるいは人種さえ異なる

人と、医療と言う、一般人ではあまり馴染みのない領域で相対する事になります。我々医療界の人間にとっての常識は、一般の人には理解して頂けない事がたくさんあるのです。そのため、患者さんの多くは非常に緊張した状態で入院して来られます。この緊張感の中で、どうやって必要な情報を引き出すか、が鍵になります。最高の方法は笑顔と優しい声掛けです。業務に必要な会話だけでは心は和みません。たわいのない会話も時には必要でしょう。どの様な表情で、どの様な声のトーンで話しかけてくれたら患者さんは安心しますか？笑顔で、明るい口調で、「おはようございます。今日は寒いですね。」挨拶は相手の心を開くことがきっかけになる事が多いです。心が和めば、患者さんから必要な情報を引き出すのも容易になります。笑顔と優しい問いかけ、これがなければ、良好な関係は築けないのです。

最後になりましたが、本校卒業生全員、呉医療センター附属呉看護学校の魂を心に灯して、素晴らしい看護師になって下さい。

1年生



62回生
穴見 心優

60回生の皆様、この度はご卒業おめでとうございます。

1年前、私は新たな環境に期待と不安を抱き入学しました。慣れない中で悩んでいる時、親睦会で先輩方が温かく迎え入れてくださり、親身に相談に乗ってくださったことが大きな支えとなりました。実習を通じて看護師としての責任の重大さを実感したことで、努力を重ねる先輩方の姿は私にとって目標であり憧れとなりました。またスポーツ交流会で場を盛り上げる頼もしい姿がとても印象に残っています。

今後も先輩方の背中を追い、一歩ずつ成長してまいります。皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

2年生



61回生
森田 蓮美

2年生では看護過程の展開の実習が始まり、個別性に沿った看護援助とは何かを考え、日々実習に励んでいます。患者さんと関わるうちに、体調がよくなっている様子を見て、自分の援助が効果的だったのではないかと感じ、うれしく思いました。その反面、個別性に応じた看護を考えることの難しさも実感しました。

学校行事では、それぞれが全力で取り組むことができていると感じています。特にスポーツ交流大会では皆で力を合わせて2位という結果が得られたことが印象に残っています。

色々なことを学んだ1年間でした。実習や学校生活を支えてくださった皆様、ありがとうございました。

令和6年度 卒業生



60回生
池森 結衣

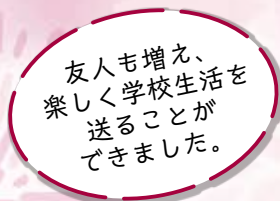
この度、無事卒業を迎えることができました。3年間、仲間と共に過ごした学校生活や授業、実習で学んだことを通して、大きく成長することができたと感じています。

実習では、「患者さんに寄り添う」という言葉について考える機会が多くあり、悩むこともありましたが、メンバーや指導者、先生方に支えられ乗り越えることができました。

60回生は困っている人に手を差し伸べられる温かい学年だと思います。呉看護学校で成長したことを活かして、4月から看護師としてたくさんの人に手を差し伸べていきたいと思っています。これからも学び続けることを忘れず、目指す看護師像に向かって励んでいきます。



62回生 入学式



親睦会



在校生が作成した
ウェルカムボード



入学許可証 授与



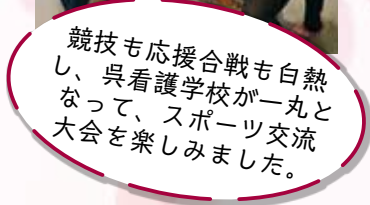
学校生活の様子



戴帽式



スポーツ交流会



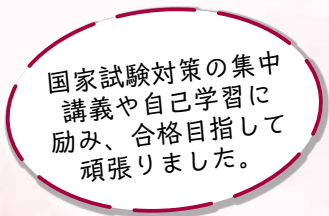
競技中の様子



学校祭



国家試験対策講義



卒業証書 授与



在校生 送辞



卒業生 答辞

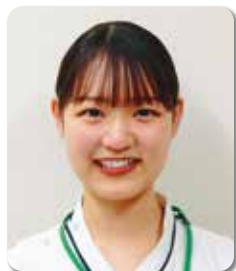


第60回 卒業式

卒業生より

6A病棟

神田 琴海 59回生



私が勤務している6A病棟は消化器外科病棟であり、主に術前から術後の急性期看護を通じた周術期看護の実践について学ぶことができます。術前から術後のリスクを予測した術前準備を行ったり、術後は患者さんの状態で回復過程が違いため、個別性のある看護を提供する必要があります。そのため日々の観察やコミュニケーションを大切に、患者さんが安全・安楽な治療を受けられるよう、他職種と連携しチームで支えています。

今は目の前の業務で手一杯な所もありますが、一つ一つの行動に責任を持ち、先輩看護師の丁寧な指導を受けながら根拠に基づいた看護を提供できるよう日々学び励んでいます。皆さんも今ある日々の授業や実習を大切に、看護師という同じ目標を持った仲間と励まし合いながら頑張ってください。一緒に看護師として働けることを楽しみにしています。

4A病棟

中野 栞那 58回生



私は当校を卒業し、呉医療センター4A病棟で助産師として勤務しています。4A病棟は産婦人科病棟で、新生児から成人、高齢の方まで幅広い年代の看護を学ぶことができます。その中でも私は主に新生児や切迫早産などで入院されている妊婦さん、出産、産後の方と関わらせていただいています。助産師の仕事は専門性が高く、母子の命に携わるという責任の強さを感じています。しかし新しい命が誕生した時には大きな喜びがあり、助産師として出産に立ち会い、命の誕生とともに喜べることにやりがいと魅力を感じています。日々の中で分からないことや不安なこともたくさんありますが、その度に先輩に相談、ご指導をいただきながら励んでいます。これからも正しい知識と技術をもち、対象の方の思いに寄り添った関わりができるよう努力していきたいです。

呉看護学校での学びや同期との出会いは今でもとても大切にしています。これからも時には先生方や先輩に頼り、同期と支え合いながら自分の思う看護師像に向かって頑張ってください。

手術室

唐内 千尋・垣内 月里 59回生



手術室は全9室あり、15診療科の手術が行われ、24時間体制で緊急手術に対応しています。私たちは器械出し、外回り看護師として、患者が安心して安全に手術が受けられるよう看護しています。私たち2人は手術室という特殊な部署に配属となりとても不安でしたが、同期がいることで1人じゃないと感じ、2人でつらいことも楽しいことも共有し、お互いが心の支えとなり、日々努力しています。

みなさんも同級生を大切に、切磋琢磨し合いながら、理想の看護師を目指して頑張ってください。

編集後記

卒業生の皆様、新生活に向けて日々準備を整えていることと思いますが、いかがお過ごしでしょうか。季節の変わり目となり、春のような温かさを感じる日もありますが、体調を崩さないよう健康管理に気をつけください。

在校生の皆様、春季休業いかがお過ごしでしょうか。心身ともにリフレッシュし、新年度に向け学習の準備を整えておきましょう。

病院関係者様、ならびに保護者様、本年度中は温かくご支援を賜り、誠にありがとうございました。無事に卒業の日、そして本年度の終業を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。卒業生の新たな門出と在校生の更なる成長に向け、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

当校で長い間ご尽力いただきました橋本副学校長先生が3月でご退任となりました。また、大川学校事務主任、木原教員、大倉教員は他施設への異動となります。心より感謝申し上げますと共に、新天地での益々のご活躍を祈念いたします。

次年度より全学年40名定員となり、当校としては1つの節目となります。今後とも変わらぬご高配を賜りますよう、お願い申し上げます。

編集委員 小山 仁一

